浄水場予定地 反対の声

座間味 排水口近くでカメ産卵

【座間味】県企業局が座間味村の阿真キャンプ場隣接地に建設を予定している座間味浄水場を巡り、一部住民から反対の動きが出ている。浄水場の排水口が、ウミガメの産卵が確認されている阿真ビーチに近く、住民からは「景観や環境への悪影響が心配だ」との声が上がっている。

企業局は本島周辺離島の水質や料金などの格差を解消するため、同村など本島周辺離島8村の水道広域化事業に取り組んでいる。同村では、現在使用中の浄水場が老朽化し、適切な水処理が難しくなっているとして新しい浄水場の設置を計画している。

浄水場ではろ過した後の排水を阿真ビーチにつながる川に流す予定で、一部住民は「排水がウミガメやサンゴなどに悪影響を及ぼさないか」と問題視している。企業局の担当者は「真水の排水を海に流すことで周辺海域の塩分濃度が薄まる可能性があり、影響については調査するかも含めて検討したい」と話した。

同村では、水の確保が長年の課題となってきた。宮里哲村長は「指摘されている点については専門家の意見を聞き、問題点を払拭した上で事業を進めてほしい」と話した。

猫の魅力アートで発信

21日那覇 発足イベント

県内の猫専門のメディアが集い、沖縄の猫の魅力を発信するプロジェクト「島猫力向上委員会」がこのほど発足し、21日から3日間の日程で発足記念イベント「島猫ニャートジャム」を催す。「人も猫も幸せに暮らせる島」を目標にさまざまな表現活動を展開。企画の売り上げの10%を動物の保護活動に寄付する。

発起人は「つなぐマガジン」代表の畑井モト子さん、沖縄猫ポータル「おきなわにゃんこビレッジ」代表の伊東一洋さん、「シマネコキネマ」代表の松島由布子さん。観光スポット「ねこ島」の創設を目指し、猫に関するオリジナルコンテンツの制作やイベントのプロデュースをする。

島猫ニャートジャムは21～23日午前10時～午後8時、那覇市平和通りのアートスペース「Cat」で。写真家の芳澤ルミ子さんの写真展「にゃんたま」とサイン会や島猫映画「Nyaha!Part#0」の上映会と仲程長治監督のトークショー（参加費千円）などがある。入場無料。

島猫力向上委員会を立ち上げた（左から）伊東一洋さん、畑井モト子さん、松島由布子さん＝那覇市平和通りのアートスペース「Cat」

身体拘

介護施設利用

表理事は「外部の目を入れ、サービス向上につなげる前向きな姿勢の表れ」と手応えを感じている。

相談内容は「レク・余暇活動」が522件で最も多く、「施設環境」（380件）、「職員の対応」（365件）と続く。職員の対応は、利用者が「満足」とした回答が

手工芸や絵画

カルチャー展

22日までタイムスビル

タイムスカルチャースクールの第6回作品展示発表会が19日、那覇市久茂地のタイムスギャラリーで始まった。20講座の受講生140人の作品を展示している

で。

趣味・手工芸部門では、琉装からじ結いやハワイアンキルト、固形せっけんをナイフで削って花や果物の形にデザインするカービングなどを展示。書道・絵画・写真部門では、水彩画や絵手紙、フォトアートなど多彩な作品が並ぶ。

恩納村から訪れた女性（67）は「洋裁も生け花もすごい。人の作品を見ていい刺激になった」と語った。

同発表会は午前10時～午後7時まで（最終日は午後5時まで）。

火山灰 食べられるの

こだわり夏スイーツ 九州・沖縄県紙交換企画 ▶3

「へ」アイス

火山灰アイスのほか、桜島ゆかりのグッズが並ぶ桜島ビジターセンター＝鹿児島県鹿児島市桜島横山町

「火山灰アイスがおいしいんだって」「へ～」

こんな会話が聞こえてきそうだ。鹿児島弁で灰は「へ」と呼ばれ、厄介者扱いされている。愛すべき存在となるべく、2014年に誕生したのが「櫻島ん火山灰！『へ』アイス」だ。

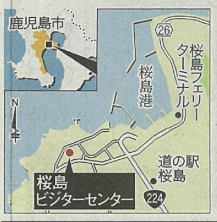
火山灰を練り込んだような灰色をしたカップアイス（税込み320円）。県産竹炭を使用している。ごつごつした溶岩に見立てたのは、喜界島の黒糖。口の中で黒糖がとろけて、ミルクアイスと絡んで甘くなる。ジャリジャリとした食感も楽しめる。

桜島ビジターセンター（鹿児島）

製造元は佐多シャーベット加工所（南大隅町）。火山のミニ博物館「桜島ビジターセンター」（鹿児島市桜島横山町）などで販売している。センターでは年間を通して売れており、約200点をそろえる商品の中でベスト3に入ることもある。

「火山灰が入っているの？」「本当に食べられるの？」などと反応が良く、写真に収める観光客や、会員制交流サイト（SNS）で情報を仕入れて来る人もいる。ビジターセンタースタッフの岡山智仁さん(29)は「見た目のインパクトと、口に含んだ味わいのギャップが面白い」と解説する。センター近くの足湯につかりながら食べるのもお薦めだ。桜島は活発な噴火活動が続いており、たまに本物の火山灰が混ざることも。でも、ごみと捨てるのではなく、薩摩の"ほこり"として味わってほしい。

（南日本新聞報道部・永井貴士）



【メモ】桜島ビジターセンターは、鹿児島市街地から桜島フェリーで15分、フェリーターミナルから徒歩5分ほど。年中無休。問い合わせは、電話099（293）2443。

西日本豪雨義援金

復興の手助け 60万円を託す

東恩納組

建設業の東恩納組（那覇市）は19日、同社や社員、社内の募金箱から集まった西日本豪雨への義援金計約60万6千円を沖縄タイムス社に託した。玉城判常務＝写真中央＝は「東恩納厚）会長は元医師。本来なら直接ボランティアとして皆さんのためになりたかったが、そうもいかないので義援金という形になった。何かの足しになれば」と話した。

浦添・西原支部 33社が33万円

県建設業協会

県建設業協会浦添・西原支部は19日、西日本豪雨への義援金33万円を沖縄タイムス社に託した。会員の全33社が1万円ずつ寄付を寄せたという。知念章支部長＝写真右から2人目＝は「少しでも困った人の生活支援に役立ててもらえれば」と話した。協会はタオルの寄付も募り、ライオンズクラブを通して1550枚を被災地に送ったという。

沖縄タイムス社受け付け（19日・敬称略）

▽山本紘司・山本和代＝1万円

沖縄のNPOや23団体に助成金

社会貢献団体機構

全国のパチンコ店などでつくる「全日本社会貢献団体機構」（杉浦正健会長）は19日、東日本大震災への支援活動や子どもの健全育成などに取り組む17都府県の23団体に、計5440万円の助成金を贈呈した。

特命助成として、パチンコ依存症の電話相談などに取り組む沖縄県の認定NPO法人「リカバリーサポート・ネットワーク」に1千万円を贈った。